

## 文献にみるフォーリー神父の北海道植物採集地

札幌市 松井 洋

## はじめに

フランス人のユルバン・フォーリー-Urbain Faurie (1847 1/1—1915 7/4) はパリ外国宣教会(カトリック)の宣教師として、1873年(明治6年、26歳)に日本の横浜港に到着した。翌年、新潟教会に転属した頃にフランスのフランシェ(Franchet)の依頼で日本の植物を採集しはじめた。その後、東京浅草教会に転任され孤児院を担当した。1883年(明治16年、36歳)に函館を拠点として、青森北海道巡回牧師として布教活動を始めた。ここで12年間の布教活動をしなが、全道にわたって植物採集を行っている。1895年(明治28年、48歳)に健康を害して一時フランスに帰国した。

フォーリーの健康が回復した翌年(1896年11月)には日本に帰着し、青森教会の主管者として再び布教活動を開始した。青森に定住して約20年間の布教活動をした後、1913年12月(大正2年、66歳)に台湾に行き植物採集に専念した。台湾の花蓮港付近で露営中にヤマビルが鼻孔に入り出血が甚だしくなり、1915年(大正4年、68歳)7月4日に逝去した。帰国していた2年間を含めて日本在住は42年間にわたり布教活動と日本、南千島、南樺太、朝鮮、ハワイ、台湾などで植物採集をおこなった。

フォーリーの植物採集した業績を知るのに、現在使用されている植物図鑑の索引を引いてみるとフォーリーの名前が冠した植物名が多くあることがわかる。台湾産・ハワイ産などの植物と原則として異名学名については省いて、以下に引用してみる。

## (1) 和名にフォーリーの名前が付いた植物

## 【地衣類】

1) フォーリーザクロゴケ *Haematomma fauriei* Zahlbr. (チャシブゴケ科)

## 【コケ(蘚苔)植物】

2) フォーリーイトヤナギゴケ *Platydictya fauriei* (Card.) Z. Iwats. & Nog. (蘚類、ヤナギゴケ科)

3) フォーリースギバゴケ *Lepidozia fauriana* Steph. (苔類、ムチゴケ科)

4) フォーリームチゴケ *Bazzania fauriana* (Steph.) S. Hatt. (苔類、ムチゴケ科)

5) フォーリーツボミゴケ *Jungermannia fauriana* Beauverd (苔類、ツボミゴケ科)

6) フォーリーイチョウゴケ=フォーリーイチョウウロコゴケ *Lophozia longiflora* (Nees) Schiffn. (=L. fauriana Steph.) (苔類、ツボミズゴケ科)

7) フォーリーフタマタゴケ *Metzgeria quadrifaris* Steph. (苔類、フタマタゴケ科)

## 【シダ植物】

8) フォーリースギナ *Equisetum × rothmaleri* C.N. Page (トクサ科、スギナ×イヌスギナの雑種)、[タイプ産地] イギリス、

## 【種子植物】

9) フォーリーガヤ *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen = *S. fauriei* Hack. (イネ科)、[基準標本] バイカル地方、

10) フォーリーアザミ *Saussurea fauriei* Franch. (キク科)

## (2) 属名にフォーリーの名前が付いている植物

11) *Fauriella* Besch. エダウロコゴケモドキ属(蘚類、ヒゲゴケ科)、

*E. Beschereille* エ・ベシレール(フランス)がフォーリーに献名した属名である。この属の日本産はエダウロコゴケモドキ *Fauriella tenuis* (Mitt.) Card. の1種がある。

12) *Fauria* Franch. イワイチョウ属(ミツガシワ科)、

フランシェ(Franchet)がフォーリーに献名した属名である。この属の日本産はイワイチョウ *Fauria crista-galli* (Menz.) Makino の1種がある。[基準標本] 八甲田山。

## (3) 種小名にフォーリーの名前が付いている植物

種小名に *fauriei* (名詞変化)、*fauriana* (形容詞変化)、*fauriensis* (形容詞変化) が付いてい